

平成 22 年 3 月期第 2 四半期決算（4 月～9 月累計）説明資料

【当第 2 四半期業績の概要】

当社は当第 1 四半期から連結財務諸表を作成しておりませんので前年同四半期との比較は行っておりません。なお、前期以前の業績は連単倍率 1.01 倍程度と連結・個別にほとんど差がないことから、参考比較として下表に前年同四半期の連結業績を記載しております。

- 業績の先行指標である受注高については、11,695 百万円（前年同四半期比 183.8%）となりました。
 - ①土木工事の受注高は、景気対策による公共事業の上半期 8 割前倒発注という市場環境の中で、本店主導型への機構改革が功を奏し、強力な組織体制で総合評価入札方式に対応できたことなどから 10,704 百万円（同 316.0%）となりました。
 - ②建築工事の受注高は、景気低迷によりマンション建築を中心に前年同期に比較し事業量は半減するという市場環境の中で、顧客の拡大など懸命な営業を展開しましたが市場の急激な縮小は如何ともしがたく 588 百万円（同 21.5%）に留まりました。
 - ③その他の受注高は、401 百万円（同 168.5%）となりました。
- 売上高については、前期からの繰越工事の完成が増加したことや売上高計上基準を原則として工事進行基準に変更したことなどから 10,095 百万円となりました。

売上高の内訳は、土木工事 7,971 百万円、建築工事 1,892 百万円、その他 231 百万円であります。
- 損益については、売上高の増加に加え、過年度受注の手持ち赤字工事の一巡、選別受注の徹底や工事施工の効率化による売上原価の低減、固定費削減効果で販売費及び一般管理費が大きく減少したことなどから、営業利益は 391 百万円、経常利益は 367 百万円、四半期純利益は 406 百万円となりました。

なお、四半期純利益には、有価証券売却益 42 百万円が含まれております。

第 2 四半期決算（4 月～9 月累計）業績

（単位：百万円）

項 目	当第 2 四半期（個別業績）	（参考）前第 2 四半期（連結業績）
（受 注 高）	11,695	[注：個別] (6,364)
売 上 高	10,095	8,074
営 業 利 益	391	▲851
経 常 利 益	367	▲824
四半期純利益	406	▲892

【参考資料】

第2四半期 部門別受注高、売上高、次期繰越高（個別）

①受注高

項目	前第2四半期累計期間 （自平成20年4月1日 至平成20年9月30日）		当第2四半期累計期間 （自平成21年4月1日 至平成21年9月30日）		前事業年度 （自平成20年4月1日 至平成21年3月31日）	
	金額	構成比率	金額	構成比率	金額	構成比率
	百万円	%	百万円	%	百万円	%
土木工事	3,387	53.2	10,704	91.6	14,233	72.7
建築工事	2,738	43.0	588	5.0	4,866	24.9
計	6,125	96.2	11,293	96.6	19,099	97.6
その他	238	3.8	401	3.4	470	2.4
合計	6,364	100.0	11,695	100.0	19,569	100.0

②売上高

項目	前第2四半期累計期間 （自平成20年4月1日 至平成20年9月30日）		当第2四半期累計期間 （自平成21年4月1日 至平成21年9月30日）		前事業年度 （自平成20年4月1日 至平成21年3月31日）	
	金額	構成比率	金額	構成比率	金額	構成比率
	百万円	%	百万円	%	百万円	%
土木工事	6,330	79.5	7,971	79.0	16,217	71.9
建築工事	1,524	19.2	1,892	18.7	5,959	26.4
計	7,855	98.7	9,863	97.7	22,177	98.3
その他	106	1.3	231	2.3	381	1.7
合計	7,961	100.0	10,095	100.0	22,559	100.0

③次期繰越高

項目	前第2四半期累計期間 （自平成20年4月1日 至平成20年9月30日）		当第2四半期累計期間 （自平成21年4月1日 至平成21年9月30日）		前事業年度 （自平成20年4月1日 至平成21年3月31日）	
	金額	構成比率	金額	構成比率	金額	構成比率
	百万円	%	百万円	%	百万円	%
土木工事	17,536	72.2	21,229	86.7	18,495	80.8
建築工事	6,597	27.2	2,985	12.2	4,288	18.8
計	24,133	99.4	24,214	98.9	22,784	99.6
その他	138	0.6	265	1.1	95	0.4
合計	24,272	100.0	24,479	100.0	22,879	100.0

【平成 22 年 3 月期通期業績見通し】

1. 受注高については、政権交代により公共事業の先行きが不透明であります。土木工事については総合評価入札方式への対応強化などで前年同期を上回る受注を見込んでおります。建築工事については市況減退に伴い前年同期から減少見通しであり、全体としては 205 億円となる見通しであります。
2. 売上高については、建築工事が市況減退により減少する見通しであります。土木工事において手持ち工事の進捗や売上高計上基準を原則として工事進行基準に変更したことなどにより増加が見込まれ、230 億円となる見通しであります。
3. 損益については、過年度受注の手持ち赤字工事の一巡に加え、選別受注の徹底や工事施工の効率化による売上原価の低減、固定費削減効果による販売費及び一般管理費の減少から、営業利益 490 百万円、経常利益 420 百万円、当期純利益 450 百万円となる見通しであります。なお、当期純利益にはリストラ対象資産のうち現時点で売却が確定していないものにかかる特別利益は計上しておりません。

通期業績見通しと前期業績との比較（個別）

（単位：百万円）

	通期見通し	前期業績	摘 要
(受 注 高)	(20,500)	(19,569)	4.8%、931 百万円の増加、2 期振りの増加
売 上 高	23,000	22,559	2.0%、441 百万円の増加、3 期連続の増収
営 業 利 益	490	▲1,286	1,776 百万円の増加、5 期振りの黒字
経 常 利 益	420	▲1,277	1,697 百万円の増加、5 期振りの黒字
当期純利益	450	▲1,350	1,800 百万円の増加、6 期振りの黒字

【参考資料】

1. 通期受注高予想の内訳（個別）（単位：百万円）

	通期見通し	前期実績
土木工事	17,500	14,233
建築工事	2,500	4,866
その 他	500	470
合 計	20,500	19,569

2. 通期売上高予想の内訳（個別）（単位：百万円）

	通期見通し	前期実績
土木工事	18,300	16,217
建築工事	4,400	5,959
その 他	300	381
合 計	23,000	22,559